

茨木市立沢池小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ② 情報の扱い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ③ A 話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ④ B 書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ C 読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の低かった設問
1二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く
- ・無回答率が全国よりも高かった設問
3三 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する

分析

傾向と課題

- ・敬語の理解を問う問題の無解答率が高かった。言葉の使い方について、適切な知識と実際に使うことを意識した指導を検討して充実させていくことが課題である。
- ・「思考・判断・表現」観点の「B 書くこと」が昨年度より低かった。図形やグラフなどの資料を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことに課題が見られる。資料を活用した説明の場面を増やして指導していく。
- ・今年度から、思考ツールを活用した授業研究に取り組んでいる。考えを整理し、相手に考えを伝えたり文章化したりする学習を各学年で積み重ねて、考える際のプロセスを重視することで「思考・判断・表現」の育成につなげていきたい。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ① A 数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ② B 図形 | 良好な結果であった |
| ③ C 変化と関係 | 良好な結果であった |
| ④ D データの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 大変良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の低かった設問
2 (4) テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く
- ・ 次に正答率の低かった設問
2 (3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く

分析

傾向と課題

- ・ 図形の意味や性質の理解に課題がみられた。授業で使用する定規や分度器などの用具を使って書いた図形ではなく、「テープを切っているいろいろな図形を作った」ことから、テープの性質を図形の説明に応用することが難しかったと思われる。
- ・ 「変化と関係」の領域が前年度よりも伸びた。伴って変わる二つの数量について、表から変化を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。ただし、その求め方について、式や言葉を用いて記述することに課題が見られた。数学的活動の「問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動」を充実させる授業の研究・実施を目指していく。
- ・ 算数は、全ての領域において概ね良好な結果であった。これは、3年・4年の習熟度別少人数指導、スクールサポーターの入り込み支援や教職員同士の児童実態理解、指導方法の連携により、個に応じた指導、基礎的・基本的な知識、技能の定着を図ってきた結果が表れていると考える。引き続き、「一人も見捨てない」授業づくりを意識して教育活動を行っていききたい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・国語・算数とも全国平均を基準とすると平均正答率はおおむね良好な状態が続いている。
- ・国語では「書くこと」「読むこと」の領域が下がった。問題形式では、短答式が伸びたが記述式が下がった。
- ・算数では、ほぼ全ての領域で伸びた。習熟度別少人数指導やスクールサポーターの活用が成果に表れている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層(EP層)についての分析

- ・国語は前年度より学力低位層が減少したが、高位層も減少した。国語科の学力向上に向けて、指導内容や方法について検討していく。算数は学力低位層が減少し、高位層は増加している。この状況を維持していきたい。
- ・EP層は、国語・算数ともに全国平均より低い。引き続ききめ細やかな指導を行い、学力の底上げを図っていきたい。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

① 授業改善

- ・学び合う活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくり
(ペアやグループ、全体での話し合い活動などを通して意見を交流することで学びを深める)
- ・児童の主体的な学びを促す授業づくりをめざす
- ・ふりかえりを重視した授業改善を行う
- ・学校として研究テーマに基づき校内研修会や授業研究会を実施する
- ・各学年、校内公開授業を実施する
- ・パワーアップ研修会(専門的な教育技術の共有化)を実施する
- ・3、4年算数習熟度別少人数指導を充実させる

② 基礎学力の向上

- ・「漢字学習」「ことばあつめ」等の取組みを充実させる
- ・読書好きな児童を増やすための取組み(朝読書、ボランティアによる読み聞かせ)を充実させる
- ・学校図書館支援員と連携した学校図書館の効果的活用(蔵書・配架の工夫)を行う
- ・少人数指導教員やスクールサポーターを軸とする個別指導を充実させる

③ 全校での取組み

- ・スクールサポーターとの丁寧な連携、習熟度別少人数学習などを通して個に応じた支援、指導を充実させる。
- ・学び合える集団づくりをすすめるために、自分も他者も大切に思う気持ちを養うことを重視する。
- ・異学年交流や異年齢活動の中で、子どもたちのコミュニケーション力や人と関わる力、自己有用感などを高める。
- ・これまで継続してきた学校行事を大切に、ねらいを明確にした計画的な行事の取組みで、子どもたちに達成感を持たせ、集団の高まりや個人の成長を促す。
- ・学校として『思考ツールを使った国語科の授業』を研究テーマに公開授業研究会や研修会を実施する。全学年でふりかえり活動を行い、書く時間の保障を行う。